

令和元年度 厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書（職業肝炎ウイルス陽性者両立支援モデル班）

肝炎患診療連携拠点病院における両立支援（岡山大学病院の取り組み）

研究分担者：池田 房雄 岡山大学病院 消化器内科
研究協力者：難波 志穂子 岡山大学病院 新医療研究開発センター

研究要旨：職域における肝炎治療と仕事の両立に必要な支援を明らかにするため、2017年度に岡山大学病院消化器内科肝臓外来を定期受診している患者に職業についてのアンケート調査を実施した。肝炎患者では仕事に影響なしとの回答が多数を占め、7割は職場の支援制度を利用していなかった。職域における肝炎治療と仕事の両立には、職域での両立支援制度の認知度を高め、利用しやすくする必要であると判明した。両立支援制度の認知度を高めるため、2018年度と2019年度は岡山県肝炎患診療連携拠点病院として岡山県地域両立支援推進チームに参画、岡山県両立支援セミナーや産業医、産業保健師などの研修会で職場の健康管理担当者に肝炎啓発活動を行い、肝炎治療における両立支援制度利用促進の必要性を話した。同セミナー会場で肝炎検診やその後の仕事と治療の両立についての相談も受けた。院内での両立支援を促進するため、療養と仕事との両立支援に関わるカルテを整備、利用開始した。利用促進のためシステム作りを進めていくことや、企業と医療機関との連携の必要性について院内研修会で啓発活動を行うことが必要である。

A. 研究目的

厚生労働省のすすめる働き方改革において、肝炎治療を受けながら、続けて仕事ができるように職域での両立支援にかかわる仕組みづくりが必要とされているが、どのような支援が必要であるか十分な検討がなされていない。

B. 研究方法

2017年度は職域における肝炎治療と仕事の両立にどのような支援が必要であるか明らかにするため、岡山大学病院消化器内科肝臓外来を定期受診している患者に職業についてアンケート調査を実施した。

この結果をふまえて、2018年度と2019年度は岡山県地域両立支援推進チームに参画、岡山労働局や産業保健総合支援センターと協力して、岡山県全体の両立支援セミナーや産業医、産業保健師などの研修会で広く職場での健康管理部署担当者に肝炎啓発活動を実施。肝炎治療における両立支援制度利用促

進のための工夫を考える研修を企画した。また、同セミナー会場で肝炎検診やその後の仕事と治療の両立について相談業務を行った。

C. 研究結果

(1) 岡山大学病院消化器内科肝臓外来を定期受診している肝炎患者への仕事についてのアンケート調査

肝炎患者 198名から回答を得た。今回、肝がん患者（32名）と肝炎患者（166名）について回答結果を比較した。肝がん患者では70代と80代の高齢層が半数、男性が75%を占めているのに対して、肝炎患者では同世代は27%であり、男性女性は半数ずつであった。

肝がん患者で一般企業での定年年齢より高齢の方でも実際には仕事をされており、その雇用形態も肝がん患者と肝炎患者で同じような比率であった。また、無職または年金受給者の割合は肝がん患者で6%、肝炎患者で10%と同程度であった。

2018年11月岡山産業保健総合支援センター主催、産業保健研修会における肝炎啓発講演および肝炎検診

岡山、倉敷、津山の3監督署にて肝炎啓発講演を行い、講演後に会場にて肝炎ウイルス検査イベントを実施(岡山県下6監督署のうち昨年までに他の3署は実施済み)。

2019年1月岡山労働局主催、治療と仕事の両立支援研修会

岡山県地域両立支援推進チームでの両立支援研修会において肝炎啓発講演を行い、会場にて肝炎ウイルス検査イベントを実施。

2019年9月岡山労働局主催、岡山県地域両立支援推進チーム第3回会議

2019年12月岡山労働局主催、治療と仕事の両立支援研修会

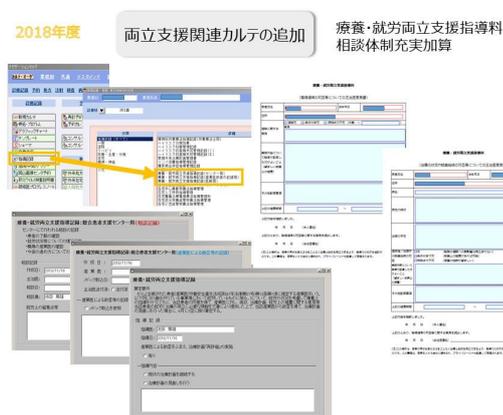
岡山県地域両立支援推進チームでの両立支援研修会会場にて肝炎ウイルス検査イベントを実施。

2020年2月岡山産業保健総合支援センター主催、産業保健研修会における肝炎啓発講演

岡山、倉敷、津山の3監督署にて肝炎啓発講演を行い、講演後に会場にて肝炎ウイルス検査イベントを実施(岡山県下6監督署のうち昨年までに他の3署は実施済み)。

(3) 拠点病院としての院内での両立支援

院内での療養と仕事の両立支援に関わるカルテを整備し、利用開始。



利用促進のため医療連携の院内研修会での啓発やニーズを拾い上げるシステム作りを今後推進していく。

D. 考察

肝疾患患者への仕事アンケート調査

職域における肝炎治療と仕事の両立には両立支援制度の認知度を高め、利用しやすくする必要であることが分かった。

岡山県肝疾患診療連携拠点病院として

岡山労働局や産業保健総合支援センターと協力し、岡山県全体の両立支援セミナーや産業医、産業保健師などの研修会で肝炎啓発を実施。同セミナー会場での肝炎検診やその後の仕事と治療の両立について相談業務を行っている。

拠点病院としての院内での両立支援

院内での療養と仕事の両立支援に関わるカルテが整備された。今後の利用促進のため、利用ニーズを拾い上げるシステム作りを進めていくことや、医療連携の必要性について院内研修会で啓発活動を行うことが必要である。

E. 結論

岡山県肝疾患診療連携拠点病院として岡山県地域両立支援推進チームに参加協力することで、院外ではがん治療での両立支援とともに肝炎啓発の活動を行うことができた。一方、院内での療養と仕事の両立支援に関わる活動は、カルテが整備されたばかりで、今後の利用促進のためのシステム作り、医療連携の必要性について院内研修会での啓発が必要である。

F. 研究発表

1. 発表論文

なし

2. 学会発表

1. 池田房雄, 難波志穂子, 岡田裕之

肝炎ウイルス高浸淫地区における愛育委員を活用した肝炎ウイルス検査イベント開催の試み 肝臓59.Suppl.1 Page

A538.2018

2. 難波志穂子, 池田房雄, 岡田裕之
扶養家族を対象とした肝炎検診の効果検証 肝臓59.Suppl.2 Page A727.2018

3. その他

啓発資材

- * 中四国ブロック合同の肝炎啓発用のポスターやちらしを作成し、肝炎デーに合わせて配布した。(別添)

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし